

地震から命を守ろう

第1回 社会同和教育講座

人権プラザ天白は、地元自治会と共同して「防災に強いまちづくり」を進めています。今回の社会同和教育講座は「大規模地震が発生した際に予想される地域の状況」、その時「自分たちの命を守るために何が出来るか」を、内糸 豊 さん(四日市市危機管理室)の緊迫感ある進行に沿って、参加者みんなで考えました。

【想定】はこうです。7月22日(日)夜8時、震度6の地震発生！テレビからは緊急地震速報が流れている。家族が帰って来ていない自宅にあなたは一人！さあ、この時どんな行動をとる必要があるか？

〇揺れがおさまった。停電あたりは真っ暗！外では近所の人の声が聞こえる

〇近くで火災発生！救助者、負傷者が出た 119番通報してもつながらぬ

〇地震の情報を入手したいが・・・情報をどのように入手したらいいのか

〇仕事や学校に行っている家族と連絡が取れない！

〇おなかが減ってきた！電気、ガス、水道は止まりお店もやっていない

いずれの事態も事前の対策を考えておけば、あわてずに行動できます。班に分かれての話し合いは、あえて限られた時間のなかで進められました。【想定】に対しては、車のライトやラジオを利用する、ケータイの接続コードを用意しておく、行き先を張り紙して出かける、足元にスリッパを用意しておく、伝言ダイヤルを使い慣れておく、等の意見が出されました。

阪神大震災では8割もの人が家族や近所の人によって救出されたことを考えると、結局近所とのコミュニケーションが何より大切だということを改めて確かめました。

